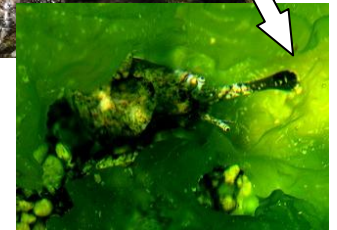




マダライモ



サヤガタイモガイ



イモガイによく似た巻貝（マガキガイ）

※殻のくびれているところから、
2つの目と1つの口を出す。

マダライモ（新腹足目イモガイ科） *Conus ebraeus*

大きさ：殻長 4cm ほど。

特徴：小型のイモガイ類。殻の表面には、黒いまだら模様がある。干潟の転石や岩礁、サンゴレキなどで普通に見られる。イモガイの仲間は、体の中に毒鉗（歯舌歯）をもっており、エサである魚などをこの武器で刺して捕食している。

症状：神経毒なので、刺されても痛みはほとんどないが、すぐに体がしびれ、おぼれる危険性がある。イモガイの中でも大型のアンボイナガイ（別名：ハブ貝、殻の大きさが 10cm 位）は、これまでに多くの死亡例が報告されている。写真のマダライモなど小さな種類のイモガイは、刺されても死亡するまでには至らないものの、刺された手がグローブのように腫れあがるらしい。症例については、種類によっては死亡するほどの毒を持っているので、見つけても、決して触らないように注意する必要がある。